

# かえる便り 29年度6号

平成29年5月15日

新緑の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私が智翠館に来て4人のマネージャーが卒業しました。今でも彼女達はサッカー部のことを真剣に考え応援しています。初任給や小遣いで差し入れをし、悩んでいる部員たちのことを知らせてくれます。在学中も卒業後も部員達のサポートをしています。試合に出た訳でもないのに、今でも陰で支えてくれているのです... 本当に感謝しかないですが、部員たちはどのように思っているのでしょうか？

自分を高めるには、質を求めることが大切です。質を高めるには、自分達よりレベルの高いチームと対戦することが必要です。しかし、最も重要なことは、日々練習をする仲間が質の高い取り組みをしているかどうかです。本番に向けて、常に最高の準備をする仲間であれば、自ずとレベルアップすると思いませんか？



あるトレーニング施設に行った時、そこで出会った高校生（陸上部）の話です。『ここでトレーニングすると記録が向上します。僕の目標はインターハイで入賞することです。それを達成できると推薦で某有名大学に入るといった目的が叶うからです。』彼は、目的と目標の違いを分かっていますね。そして、今、何をすべきかを具体的に把握して実践していました。部員は何を学んでくれるのでしょうか？

感動とは“感・即・動”です。何に“感動”するかは人により異なりますが、感動体験を積み重ねることで成長します。“できる喜び” “わかる喜び”を与えられる人でありたいと思うのですが... 思うようにいきませんね。“自分を変える”手掛かりにしてほしいと思いをだしているのですが、部員たちの心に響いていないのではないかと思うこの頃です。

“的”とは、数ある中から一つを取り出し明らかにする という意味です。サッカーの的はどこですか？パスを足元（静止）に出すかスペース（動）にだすか、誰に出すか、誰に（どの方向）出せるかで次の狙いが変わります。ボール保持の状況から可能なプレー、優先順位が分かると思います。試合中に起きた現象から、因果関係を考え改善できる選手・チームになってほしいと強く思います。“頑張ります”と言いますが、“何をどのようにするのか”がないので、失敗を繰り返します。具体的な方法を常に追求してほしい!!